

資料

子どもの遊び場づくりの現状と課題 —「緑の遊び場プロジェクト」の参加状況や評価に関する アンケート調査から—

八重樫 牧 子

要 約

本研究の目的は、2018年度の「緑の遊び場プロジェクト」（岡山市とNPO法人岡山子どもセンターの協働事業）の一環として実施された公園での遊び場づくりのイベントの参加者（保護者）を対象にアンケート調査を実施することによって、参加状況や満足度などを明らかにし、このプロジェクトの今後の課題を検討することである。調査対象者は、西川緑道公園の参加者79人と、野田屋町公園の参加者42人を合わせた121人である。その結果、①イベントに参加して良かったと思っている人は95.1%であった。イベント参加満足度の高い人は、イベントの参加をきっかけに公園で外遊びをしたいと思っており（ $p=0.25$ ； $p<0.01$ ）、近くの公園でのこのようなイベントに参加したいと思っていること（ $p=0.42$ ； $p<0.01$ ）、そして②このイベント参加をきっかけに、公園で外遊びをしたいと思っている人は93.4%と多く、彼らの子どもは普段から公園でよく遊んでおり（ $p=0.32$ ； $p<0.01$ ）、近くの公園でのこのようなイベントが開催されたら参加したいと思っていること（ $p=0.51$ ； $p<0.01$ ）が明らかになった。以上のことから、公園での「外遊び」を通して子どもの健全育成を図るために、今後とも、このプロジェクトを継続するとともに、他の公園での開催、イベント回数を増やす、小さい子どもや大きい子どもが参加できる外遊びの実施など、イベントの充実と拡大が課題である。

1. 緒言

都市化や核家族化、そして少子化の進行により、家庭や地域社会における子育て・育育て状況が大きく変わり、子どもを取り巻く遊び環境も変化してきている。2009（平成21）年度全国児童家庭調査¹⁾によると、小学校5～6年生は、遊び場として72.6%が友達の家と答え、公園と答えたものは55.7%であった。一日のうち、テレビゲームやパソコンで遊ぶ時間について「ほとんど遊ばない」が23.3%で、持っていないや不明を除くと69.6%が遊んでいることがわかった。また、普段一緒によく遊ぶ友達についても、84.5%が「同じクラスの子」と答えていた。このように子どもの遊び場は屋外から屋内へと変化し、子どもたちは塾や習い事に追われ遊び時間が少なくなり、遊び仲間は異年齢を含む大人数の集団から同年齢の少人数になり、いわゆる「3間の喪失」が顕著になってきている²⁾。このことは、子どもの

心身の発達に悪影響を及ぼすといわれている^{3,6)}。

遠藤ら⁷⁾は、1～6年生の2,205人を対象に調査を実施し、児童の遊びの実態と心理的発達（攻撃性・社会性）に着目し検討した結果、内遊びは児童の攻撃性を高める傾向が、外遊びは社会性を高めるという結果を示している。また、八重樫²⁾は、小学3年生917人を対象にした子どもの遊びや生活に関する調査結果から、外遊びの好きな子どもは、よく遊び、遊び友達も多く、自主性や共感性が高いことを明らかにしている。さらに、児童館・児童センターを利用している311人の児童を対象にした調査からも、外遊びが好きな男子・女子は協調性得点や創造性得点が高いこと、家や近くの公園空き地などで遊ぶ男子・女子は協調性得点が高いこと、外遊びであるスポーツなど体を動かす遊びをする男子や探検をする女子は協調性得点・創造性得点が高いことがわかった⁸⁾。人は社会的な存在であると同時に個人

新見公立大学 健康科学部 地域福祉学科

（連絡先）八重樫牧子 〒700-0080 岡山市北区津島福居1-9-20-1（自宅）

E-mail : hamanami@po8.oninet.ne.jp

的存在である。個人の独自性が明確になり自律していく「個性化」(分離性)と、他人と共存し社会に適応していく「社会性」(統合性)の2つの相補的な発達機能によって、個人は成長し、社会的に適応を遂げることができる^{9,10)}。かつて子どもの遊びの隆盛期には、子どもは戸外で群れをなして遊んでおり、この活動的な外遊びを通して仲間集団が形成され、子どもはこの仲間集団に参加し所属することによって個人化や社会化がなされた⁴⁾。しかし、今日ではこのような外遊びが地域に自然に発生するのは難しくなってきた。子どもたちの外遊びを保障するために遊び場を地域に意図的に創りだしていくことが必要になってきている。また、現在、必要とされている子どもの遊び場は、従来のように単に施設を整備しただけの遊び場ではなく、積極的に大人が関わり、遊びの面白さを伝えていくことによって、本来の遊びを回復していくことを目指すことも必要である¹¹⁾。

このような遊び場として、冒険遊び場(プレーパーク)^{†1)}がある。冒険遊び場づくりで大切にされていることは、①子どもの生活圏にあること、②いつでも遊べること、③だれでも遊べること、④自然素材が豊かな野外環境であること、⑤つくりかえることができる手づくりの要素があることである。また、冒険遊び場の運営については、①住民によって運営すること、②住民と行政のパートナーシップを築くこと、③専門職のプレーリーダーがいることである¹²⁾。子どもの自由な遊びを保障するために、このような子どもの遊び場づくりが行われているが、NPO法人岡山市子どもセンターも2008(平成20)年度には常設の「おかやまプレーパーク」を開催し、プレーリーダーも常駐するようになった^{†2)}。

本研究でとりあげる「緑の遊び場プロジェクト」は、2012(平成24)年度にNPO法人岡山市子どもセンターが岡山市都市整備局庭園都市推進課より委託を受け、行政とNPO法人の協働事業として実施されている。地域が交流できる公園の活用を目指し、まちなかでの子どもたちの外遊びを応援し、持続可能な社会の担い手を育む取り組みことを目的としている¹³⁾。

岡野¹⁴⁾は2012・2013(平成24・25)年度の「緑の遊び場(ESD)プロジェクト」の事業評価を行っているが、参加者の満足度などを検討した実証的な利用者評価がなされていない。そこで本研究では、2018年度の「緑の遊び場プロジェクト」の一環として実施された公園での遊び場づくりのイベントに参加した人を対象にアンケート調査を実施することによって、参加状況や満足度などを明らかにし、本事業

を実証的に評価し、これからの公園のあり方や関わり方などを検討することを目的としている。

2. 方法

2.1 調査対象

2018年7月22日(日)に、西川緑道公園で実施されたイベントの参加者(子ども以外の保護者など)と、同年10月13日(土)に野田屋町公園で実施されたイベントに参加した参加者(子ども以外保護者など)を対象にアンケート調査を実施し、その場で回収した。西川緑道公園のアンケート調査の回答者は79人、野田屋町公園の回答者は42人であり、両公園の回答者を合わせると121人であった。

ちなみに、西川緑道公園に参加した参加者(子どもを含む)は約480人、野田屋町公園に参加した参加者(子どもを含む)は約236人であり、両公園を合わせると約716人であった。また、西川緑道公園に参加したボランティアスタッフは28人(内大学生1人)、担当課職員は2人、公園協会職員2人であった。野田屋町公園に参加したボランティアスタッフは18人(内大学生1人)、担当課職員は2人であった。

2.2 調査内容

調査内容は、①属性4項目(記入者と子どもとの続柄、年齢、参加した子どもの人数と年齢、居住地域)、②イベントに関する5項目(認知度、認知方法、参加経験と回数、楽しかった遊び、イベント参加満足度)、③公園での外遊びに関する3項目(公園外遊び頻度、公園外遊びへのイベント参加効果、公園でのイベント参加希望)、④外遊びノート^{†3)}に関する3項目(認知度、活用方法、利用希望)、⑤自由記述、である。

なお、イベント参加満足度・公園外遊び頻度・公園外遊びへのイベント参加効果・公園でのイベント参加希望の項目は、5件法による順序尺度である。イベント参加満足度の尺度は、1位は「とてもよかった」、2位は「よかった」、3位は「どちらでもない」、4位は「あまりよくなかった」、5位は「よくなかった」である。公園外遊び頻度の尺度は、1位は「ほぼ毎日」、2位は「週2~3回」、3位は「週1回程度」、4位は「月に1回程度」、5位は「全く遊ばない」である。公園外遊びへのイベント参加効果の尺度は、1位は「とても思う」、2位は「少し思う」、3位は「どちらでもない」、4位は「あまり思わない」、5位は「思わない」である。そして、公園でのイベント参加希望の尺度は、1位は「ぜひ参加したい」、2位は「参加したい」、3位は「どちらでもない」、4位は「あまり参加したくない」、5位は「思わない」である。

2.3 分析方法

①すべての項目について基礎集計を行った。②子どもとの続柄（母と父）・イベントの認知度・参加経験・参加回数・外遊びノート認知度・外遊びノート活用方法・外遊びノート利用希望に関する項目について、イベントを開催した公園（西川緑道公園と野田屋町公園）や年齢（不明を除く119人中30歳代以下55人と40歳代以上64人）による違いがあるか検討するためにクロス集計を行い、カイ2乗検定（Fisherの直接法）を行った。③イベント参加満足・公園外遊び頻度・公園外遊びへのイベント参加効果・公園でのイベント参加希望の項目について、開催公園（西川緑道公園と野田屋町公園）・年齢（30歳代以下と40歳代以上）・イベントの認知度（知っていたと知らなかった）・イベント参加経験（参加経験有とはじめて参加）によって差があるかどうか検討するために、マン・ホイットニーの検定を行った。④イベント参加満足度・公園外遊び頻度・公園外遊びへのイベント参加効果・公園でのイベント参加希望との関連性を検討するために、スピアマンの順位相関係数を算出した。⑤自由記述については、内容分析を行った。53人の自由記述を意味のある長さに区切ったところ、77の記述内容が抽出できた。その記述内容を検討し、同じ内容についてまとめ、名称を付けコードとした。コード名の後の（ ）内の数字は回答者の個人番号である。次に、類似したコードをまとめ、サブカテゴリとして分類し、名称を付けた。類似したサブカテゴリをまとめ、カテゴリとして名称を付け、さらに類似したカテゴリをまとめ、大カテゴリとして名称を付けた。

なお、統計処理は、統計ソフトIBM SPSS Statistics 23を用いた。

2.4 倫理的配慮

アンケート調査用紙に、アンケート調査の目的、無記名であること、調査結果は統計的に処理されるので個人が特定されることはないことを明記した。アンケート調査への回答は任意であり、アンケートの回答をもって同意を得たものと判断した。なお、本研究を発表するにあたっては、岡山市都市整備局庭園都市推進課とNPO法人岡山市子どもセンターの了解を得ている。

3. 結果

3.1 調査対象の属性

3.1.1 調査対象者（回答者）と子どもの続柄

本調査の回答者121人中、母親が75人（62.0%）と最も多く、次に父親が39人（32.2%）と多くなっていた。祖母が3人（2.5%）、その他が4人（3.3%）

であった。なお、母と父の回答者114人について、西川緑道公園と野田屋町公園を比較するためにクロス集計を行い、カイ2乗検定を行った結果、有意差は認められなかった。同様に年齢（30歳以上と40歳以上）の比較を行った結果、有意差は認められなかった。

3.1.2 調査対象者（回答者）の年齢

本調査の回答者は、40代が58人（47.9%）と多く、次に30代が52人（43.0%）であった。野田屋町公園での回答者は、30歳代の方が40歳代より多くなっていたが、30歳代以下と40歳代以上の回答者110人について、西川緑道公園と野田屋町公園を比較するためにクロス集計を行い、カイ2乗検定を行った結果、有意差は認められなかった。

3.1.3 参加した子どもの人数と年齢

本調査に回答した人の子どもの参加人数は185人で、平均年齢は5.7±2.1歳であった。1人の子どもを連れて参加した人が116人（62.7%）と多く、2人の子どもは64人（34.6%）であった。3人子どもを連れて参加した人は5人（2.7%）で、西川緑道公園のみであった。

3.1.4 調査対象者の居住地域

表1に示すように、本調査の回答者は岡山市全域からイベントに参加しており、イベントを開催した公園のある北区の参加者が多かった。西川緑道公園は鹿田小学校区からの参加者が13人（16.5%）、野田屋町公園は中央小学校区からの参加者が8人（19.0%）と多くなっていた。西川緑道公園では市外から9人（11.4%）が参加していたが、野田屋町公園は2人（4.8%）と少なかった。

3.2 イベントについて

3.2.1 イベントの認知度

今回実施された公園での遊び場づくりのイベントについては、102人（84.3%）の人が知っていた。西川緑道公園では70人（88.6%）が知っていたと答えており、野田屋町公園の32人（76.2%）と比べると多かったが、有意差は認められなかった。年齢別からみても有意差はなかった。

3.2.2 イベントの認知方法

図1からわかるように、イベントを知った方法は、チラシと答えた人が72人（59.5%）と多かった。西川緑道公園も野田屋町公園もチラシと答えた人が59.5%と多かった。

3.2.3 イベントの参加経験・参加回数

イベントに初めて参加した人が98人（81.0%）と多く、これまでに参加したことのある人は23人（19.0%）と少なかった。特に西川緑道公園では、初めて参加した人は67人（84.8%）と、野田屋町公

表1 開催公園別調査対象者の居住地域

住所	小学校区	西川緑道公園		野田屋町公園		全体		
		人数	%	人数	%	人数	%	
岡山市	北区	伊島	3	3.8	3	7.1	6	5.0
		横井	3	3.8	0	0.0	3	2.5
		岡南	1	1.3	1	2.4	2	1.7
		吉備	1	1.3	0	0.0	1	0.8
		御野	3	3.8	2	4.8	5	4.1
		鯉山	1	1.3	0	0.0	1	0.8
		鹿田	13	16.5	4	9.5	17	14.0
		西	2	2.5	2	4.8	4	3.3
		石井	1	1.3	1	2.4	2	1.7
		大元	4	5.1	1	2.4	5	4.1
		大野	1	1.3	1	2.4	2	1.7
		中央	2	2.5	8	19.0	10	8.3
		津島	0	0.0	3	7.1	3	2.5
		陵南	1	1.3	0	0.0	1	0.8
	中区	旭東	0	0.0	1	2.4	1	0.8
		旭竜	0	0.0	1	2.4	1	0.8
		宇野	5	6.3	2	4.8	7	5.8
		高島	1	1.3	1	2.4	2	1.7
		三敷	4	5.1	1	2.4	5	4.1
		操南	1	1.3	0	0.0	1	0.8
		幡多	1	1.3	1	2.4	2	1.7
		富山	3	3.8	0	0.0	3	2.5
		平井	0	0.0	1	2.4	1	0.8
	東区	芥子山	1	1.3	0	0.0	1	0.8
		江西	2	2.5	0	0.0	2	1.7
		浮田	0	0.0	1	2.4	1	0.8
		平島	1	1.3	0	0.0	1	0.8
	南区	第一藤田	2	2.5	0	0.0	2	1.7
		彦崎	0	0.0	1	2.4	1	0.8
		芳泉	3	3.8	0	0.0	3	2.5
		芳田	2	2.5	0	0.0	2	1.7
		芳明	4	5.1	1	2.4	5	4.1
	不明	不明	4	5.1	3	7.1	7	5.8
市外		9	11.4	2	4.8	11	9.1	
合計		79	100.0	42	100.0	121	100.0	

注) ■■■■ : 10%以上 ■■■ : 0%

園の31人(73.8%)より多かったが、有意差は認められなかった。年齢別からみても有意差はなかった。

イベントに参加したことのある23人に参加回数を聞いたところ、2回以上と答えた人が16人(69.6%)と多かった。2回以上と答えた人は、野田屋町公園の5人(45.5%)に比べて、西川緑道公園は11人(84.6%)と多くなっていた(5%の水準で有意差有)。しかし、年齢別にみた場合には有意差は認められなかった。

3.2.4 楽しかった遊び

イベントで実施された遊びは、開催公園によって異なるので、西川緑道公園と野田屋町公園を分けてみていく。

西川緑道公園に参加した人は、表2からわかるように「⑤ころころころがしてみよう」が23人(29.1%)であり、「②ショクドウGO!」も22人(27.8%)と多くなっていた。どの遊びも15%以上の人が楽しかったと答えていたが、30%以上の人が楽しかった

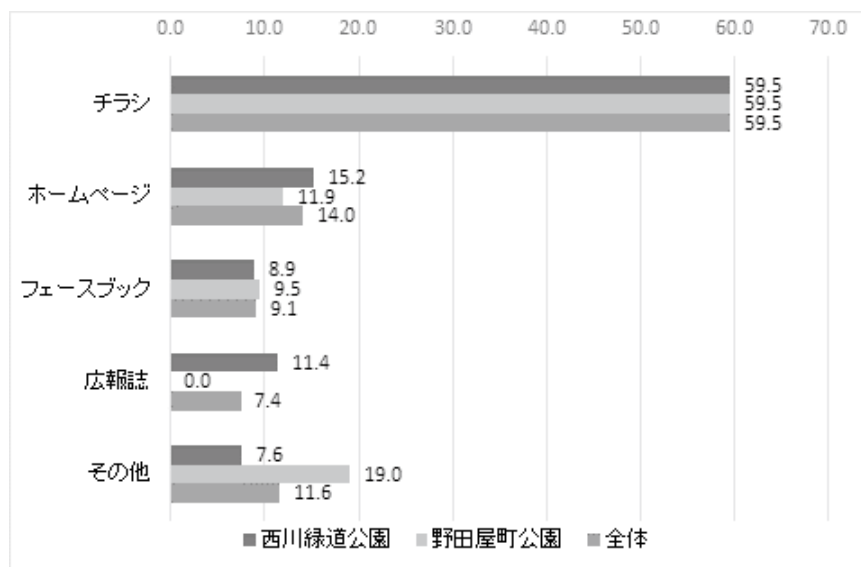


図1 開催公園別イベントの認知方法

表2 楽しかった遊び (西川緑道公園)

楽しかった遊び	人数	%
① ツーリング	18	22.8
② リョクドウGO!	22	27.8
③ カモフラージュ	12	15.2
④ ボードゲームa	17	21.5
⑤ ころころがしてみよう	23	29.1
⑥ どんぐりコロコロa	15	19.0
⑦ マラカスをつくってあそぼう	15	19.0
⑧ はっぱおさかなつり	16	20.3
⑨ その他	3	3.8

注1) n=79, 複数回答

注2) 「④ボードゲーム」と「⑥どんぐりコロコロ」にaを表記しているのは、表3の同名の遊びとは場所と内容が異なるので、区別するためである。

表3 楽しかった遊び (野田屋町公園)

楽しかった遊び	人数	%
① ロープ遊び	15	36.6
② ベーゴマ	3	7.3
③ 落ち葉でアート	17	41.5
④ どんぐりコロコロb	20	48.8
⑤ マシュマロ焼き	25	61.0
⑥ ロウソク作り	10	24.4
⑦ ボードゲームb	9	22.0
⑧ その他	3	7.3

注1) n=41, 複数回答

注2) 「④どんぐりコロコロ」と「⑦ボードゲーム」にbを表記しているのは、表2の同名の遊びとは場所と内容が異なるので、区別するためである。

と答えた遊びはなかった。野田屋町公園については、表3からわかるように「⑥マシュマロ焼き」が25人(61.0%)と多く、「④どんぐりコロコロ」が20人(48.8%)、「③落ち葉でアート」が17人(41.5%)、「①ロープ遊び」が15人(36.6%)であった。30%以上の人が楽しかったと答えた遊びが多かった。

3.2.5 イベント参加満足度

「このイベントに参加して良かったですか?」とイベント参加満足度については、「とても良かった」と答えた人が56人(46.3%)、「よかった」と答えた人も59人(48.8%)であり、イベント参加満足度が

高かった。公園別・年齢別によるイベント参加満足度には有意差は認められなかった。

3.3 公園での外遊びについて

3.3.1 公園での外遊び頻度

「お子さんは、普段、公園で遊んでいますか?」という公園外遊び頻度に関する質問については、週1回と答えた人が55人(45.5%)と多く、次に週2~3回と答えた人が34人(28.1%)と多くなっていた(図2)。野田屋町公園については、「全く遊ばない」と答えた人が2人(4.8%)いたことに留意したい。公園別・年齢別による公園での外遊び頻度には有意差

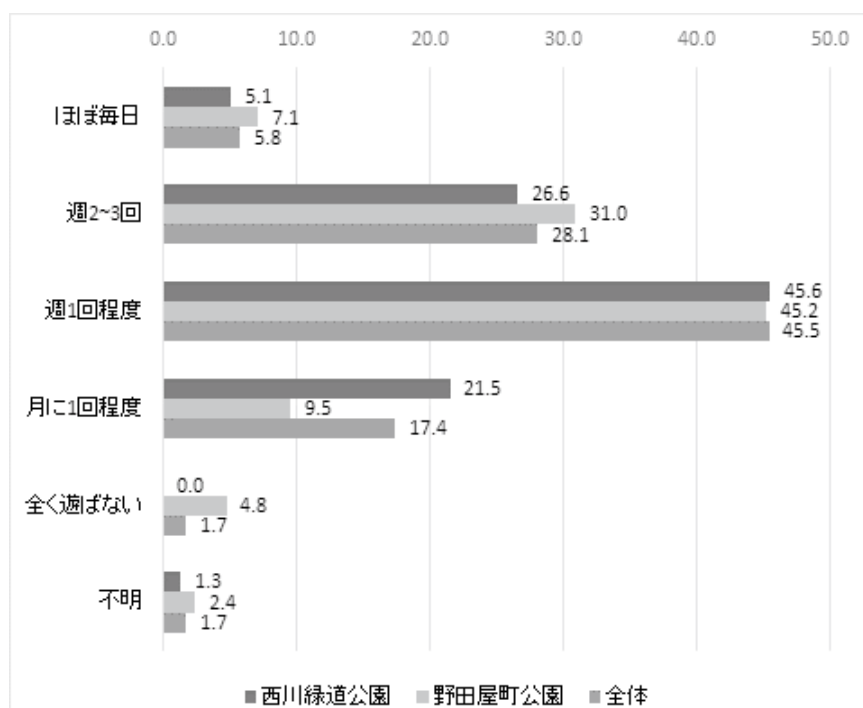


図2 公園での外遊び回数

は認められなかった。

3.3.2 公園外遊びへのイベント参加効果

「このイベントへの参加をきっかけに、公園で外遊びをしたいと思いませんか?」という公園外遊びへのイベント参加効果に関する質問に対して、「とても思う」と答えた人が61人(50.4%)と多く、「少し思う」と答えた人も52人(43.0%)と多くなっていた。公園別・年齢別によるイベント参加効果には有意差は認められなかった。

3.3.3 公園でのイベント参加希望

「お住まいの近くの公園で、このようなイベントが開催されたら参加したいと思いますか?」という公園でのイベント参加希望に関する質問については、「ぜひ参加したい」と答えた人は71人(58.7%)と多く、「参加したい」と答えた人も44人(36.4%)と多かった。公園別・年齢別による公園でのイベント参加希望には、有意差は認められなかった。

3.4 外遊びノートについて

3.4.1 外遊びノートの認知度と活用方法

外遊びノートについては、「知らない」と答えた人が110人(90.9%)と、認知度は低く、知っていると答えた人は8人(6.6%)と極めて少なかった。「不明」と答えた人を除く118人についてクロス集計を行ったところ、公園別・年齢別による外遊びノートの認知度には有意差は認められなかった。

3.4.2 外遊びノートの活用希望

外遊びノートを「読んでみたい」と答えた人が61人(50.4%)と多く、35人(28.9%)が「使ってみよう」と思っていた。回答の多かった「使ってみよう」と「読んでみたい」の項目について、公園別・年齢別に外遊びノートの活用希望のクロス集計を行い、カイ2乗検定を行った結果、有意差は認められなかった。

3.5 イベント認知度からみたイベント参加満足・公園外遊び頻度・公園外遊びへのイベント参加効果・公園でのイベント参加希望

イベント参加満足度については、表4からわかるように、イベントを「知っていた」人の参加満足度と「知らなかった」人の参加満足度には、有意差は認められなかった。公園外遊び頻度については、イベントを「知っている」人の方が、公園での外遊びの頻度が高いことが明らかになった(1%の水準で有意差有)。また、公園外遊びへのイベント参加効果についても、イベントを「知っている」人の方が、このイベントの参加をきっかけに、公園で外遊びをしたいと思っていることが明らかになった(5%の水準で有意差有)。しかし、近くの公園でのこのようなイベントへの参加を希望するかということについては、イベントを「知っていた」人の参加満足度と「知らなかった」人の参加満足度には有意差は認められなかった。

表4 イベント認知度からみたイベント参加満足・公園外遊び頻度・公園外遊びへのイベント参加効果・公園でのイベント参加希望

項目	認知度	人数	平均ランク	順位和	漸近有意確率 (両側)
II-5イベント参加満足度	知っていた	96	59.05	5668.50	0.38
	知らなかった	19	52.71	1001.50	
	合計	115			
III-1公園外遊び頻度	知っていた	100	55.94	5594.00	0.00
	知らなかった	19	81.37	1546.00	
	合計	119			
III-2公園外遊びへのイベント参加効果	知っていた	95	54.19	5148.50	0.02
	知らなかった	18	71.81	1292.50	
	合計	113			
III-3公園でのイベント参加希望	知っていた	96	59.96	5756.00	0.09
	知らなかった	19	48.11	914.00	
	合計	115			

注1) Mann-Whitneyの検定

注2) イベント満足尺度：1位：とてもよかった，2位：よかった，3位：どちらでもない，4位：あまりよくなかった，5位：よくなかった

注3) 公園外遊び頻度尺度：1位：ほぼ毎日，2位：週2～3回，3位：週1回程度，4位：月に1回程度，5位：全く遊ばない

注4) 公園外遊びへのイベント参加効果尺度：1位：とても思う，2位：少し思う，3位：どちらでもない，4位：あまり思わない，5位：思わない

注5) 公園でのイベント参加希望：1位：ぜひ参加したい，2位：参加したい，3位：どちらでもない，4位：あまり参加したくない，5位：思わない

3.6 イベントの参加経験からみたイベント参加満足・公園外遊び頻度・公園外遊びへのイベント参加効果・公園でのイベント参加希望

イベント参加満足度については、表5からわかるように、イベント参加経験有の人のイベント参加満足度と、はじめて参加した人の参加満足度には、有意差は認められなかった。公園外遊び頻度については、イベントの参加経験有の人の方が、はじめて参加した人より、公園での外遊びの頻度が高いことが明らかになった（5%の水準で有意差有）。また、イベントの参加経験有の人の方が、はじめて参加した人より、このイベントをきっかけに、公園で外遊びをしたいと思っていることが明らかになった（5%の水準で有意差有）。近くの公園でのこのようなイベントの参加を希望するかということについては、イベントの参加経験有の人の方が、はじめて参加した人より、イベント参加を希望していることが明らかになった（5%の水準で有意差有）。

3.7 イベント参加満足度・公園外遊び頻度・公園外遊びへのイベント参加効果・公園でのイベント参加希望の関連性

3.7.1 イベント参加満足度との関連性

表6は、すべての変数についてシャピロ・ウィルク検定を行った結果、いずれも正規分布に従わないことが確認できたのでスピアマンの順位相関係数を算出し、示したものである。イベント参加満足度と公園外遊びのイベント参加効果の相関係数は、 $\rho = 0.25 (p < 0.01)$ でやや相関があった。このことから、イベント参加満足度とイベントの参加をきっかけに公園で外遊びをしたいと思うこととの間には関連性があることがわかった。また、イベント参加満足度と公園でのイベント参加希望の相関係数は、 $\rho = 0.42 (p < 0.01)$ でかなり相関があった。このことから、イベント参加満足度の高い人ほど、近くの公園でのこのようなイベントがあれば参加したいと思えることが明らかになった。しかし、イベント参加満

表5 イベントの参加経験からみたイベント参加満足・公園外遊び頻度・公園外遊びへのイベント参加効果・公園でのイベント参加希望

項目	参加経験	人数	平均ランク	順位和	漸近有意確率(両側)
Ⅱ-5 イベント参加満足度	参加経験有	23	51.00	1173.00	0.19
	はじめて参加	92	59.75	5497.00	
	合計	115			
Ⅲ-1 公園外遊び頻度	参加経験有	22	44.93	988.50	0.02
	はじめて参加	97	63.42	6151.50	
	合計	119			
Ⅲ-2 公園外遊びへのイベント参加効果	参加経験有	21	44.45	933.50	0.02
	はじめて参加	92	59.86	5507.50	
	合計	113			
Ⅲ-3 公園でのイベント参加希望	参加経験有	22	46.45	1022.00	0.03
	はじめて参加	93	60.73	5648.00	
	合計	115			

注1) Mann-Whitneyの検定

注2) イベント満足尺度、公園外遊び頻度尺度、公園外遊びへのイベント参加効果尺度、公園でのイベント参加希望については表4同じ

表6 イベント参加満足度・公園外遊び頻度・公園外遊びへのイベント参加効果・公園でのイベント参加希望の関連性

	Ⅱ-5	Ⅲ-1	Ⅲ-2	Ⅲ-3
Ⅱ-5 イベント参加満足度	1.00	0.15	0.25**	0.42**
Ⅲ-1 公園外遊び頻度		1.00	0.32**	0.10
Ⅲ-2 公園外遊びへのイベント参加効果			1.00	0.51**
Ⅲ-3 公園でのイベント参加希望				1.00

注) Spearmanのロー, **: $p < .01$

足度と公園外遊び頻度の相関係数は、 $\rho = 0.15$ で相関が低く、関連性はなかった。

3.7.2 公園外遊びへのイベント参加効果との関連性

表6からわかるように、公園外遊びへのイベント参加効果（このイベントの参加をきっかけに公園で外遊びをしたい）については、イベント参加満足度・公園外遊び頻度・公園でのイベント参加希望のいずれの項目とも有意な関連性が認められた。先にも述べたようにイベント参加満足度との相関係数は、 $\rho = 0.25$ ($p < 0.01$) でやや相関があり、関連があることがわかった。また、公園外遊び頻度について

も、 $\rho = 0.32$ ($p < 0.01$) でやや相関があり、関連性があることが明らかになった。また、公園でのイベント参加希望との相関係数は、 $\rho = 0.51$ ($p < 0.01$) とかなり相関があることがわかった。

以上のことから、イベントへの参加をきっかけに、公園で外遊びをしたいと思う人は、イベントに参加したことを良かったと思っていること、子どもが普段から公園で遊んでいること、そして近くの公園でこのようなイベントが開催されたら参加したいと思っていることが明らかになった。

3.8 自由記述の内容分析（ストーリーライン）

53人の自由記述を意味のある長さに区切ったとこ

ろ、77の記述内容が抽出できた。表7に示すように、この記述内容から62のコード、35のサブカテゴリ、14のカテゴリ、7の大カテゴリが抽出された。以下の文中では、大カテゴリは【 】, カテゴリは<>,

サブカテゴリは< >, コードは [] で示す。大カテゴリは【参加者の状況】, 【イベント参加】, 【遊びの肯定的評価】, 【イベント評価】, 【感謝】, 【参加頻度・場所の希望】, 【遊びやイベントの希望】であっ

表7 自由記述の内容分析

大カテゴリ	カテゴリ	サブカテゴリ	コード
参加者の状況	公園での外遊び体験	子どもの頃の外遊び体験	小さいころにはよく近くの公園で一緒に遊びました (32)
		公園で子どもと一緒に遊ぶ	いつもこどもの森にも遊びに行っています (117)
イベントの参加状況	イベントの期待と参加	子どもが楽しみにしている	子どもがたのしみにしていました (95) 子どもが毎回とても楽しみにしています (105)
		イベント初参加	初参加 (32) (48)
	イベント参加希望	次回参加希望	次回も参加したいと思う (11) (37) (100) (121)
		ボランティア参加希望	ボランティアがあれば参加したい (54)
外遊びについて肯定的な評価	楽しい外遊び体験	外遊びの楽しさ	木陰がたくさんあり暑い中でも涼しく遊べた (22) 日陰だったのでよかった (72)
			天気も良く、気持ちよく外遊びができて子どもたちの楽しそうな顔が見れて良かった (116)
			外で遊ぶ、好きなことは人生に取り入れていけばプラスになる (82)
		自然の中の遊びの楽しさ	自然の遊びがたくさんありよかったです (22)
			自然に触れさせることができよ経験ができました (47)
			岡山市の街中でも自然に触れて遊べる楽しい企画だと思います (37)
			自然を生かした遊びをたくさん考えられて素晴らしいと思います (40)
		自分で考えて主体的に遊ぶ楽しさ	手作りおもちゃ等で、外で自然なあそびができて楽しかったです (1)
			考えて遊ぶ体験をととても楽しんでいました (27)
			自分たちで遊びを考えて遊んでいるのがとても良かった (102)
	元々の遊びを自分たちで改造したり、ルールを作ったりして考えるのが良い (102)		
	木のことを知ったので良かったです (70) 木の種類が分かるようになった (71)		
	いろいろなロープがあつて、それぞれ景色もしがって楽しそうでした (ツリーイング) (33)		
	豊富で工夫された遊びの楽しさ	ベーゴマはまだ難しかったです (104)	
		マシュマロ焼きがおいしく、七輪を見るのも初めてで楽しんでいました (104) 初めてのマシュマロ焼きや遊びに喜んでいました (115)	
		どんぐりコロコロがいちばんよかったです (104)	
		手作り将棋は良い企画だと思います (94)	
		将棋もできて子どもが何か頭を使って遊ぶ (82)	
		こういう遊びは子どもたちいつまでも遊びますね (40)	
		異年齢の子どもとの遊び	小さい子 (2歳) も大きい子 (6歳) も楽しめました (2)
遊び仲間との集団遊びの楽しさ	たくさん子どもたちとの遊び	普段公園に人がいないので (時間帯?) たくさん人がいて楽しかったです (106)	

(次頁に続く)

(前頁より続く)

大カテゴリ	カテゴリ	サブカテゴリ	コード
イベントの評価	イベントについて肯定的な評価	楽しかった	楽しかったです (11) (23) (48) (95) (106) (114)
		子どもが楽しそうだった	大いに遊ばせてもらって終始楽しそうでした (96)
		子どもが喜んでいて	子どもたちが喜んでいたので夏休みの思い出になりました (38)
			子どもが喜んでいました (52)
		とても良いイベント	とても感動しました (121) とても良い試みだと思います (100) 夏休みの思い出になりました (38)
	参加したことについて肯定的な評価	子どもが楽しめて参加して良かった	とても子どもたちが楽しめていたのでよかったです (85)
			子どもたちの楽しそうな顔が見れて良かった (116)
			思いのほか楽しんで遊んでいたので参加してよかったです (39)
		とても楽しそうでした (30)	
	参加して良かった	参加してよかったです (39) (61) (80) 通りすがりだったのですが、来てよかったです (87)	
感謝	感謝とねぎらい	イベント企画への感謝	ありがとうございました (1) (55) (60) (95) (103) (121)
			楽しい企画をありがとうございます (117)
		暑い中ありがとうございました (21)	
	スタッフへのねぎらい	それにしてもこの暑さ、スタッフの皆様お疲れ様です (41)	
		お疲れ様です (96)	
日頃の感謝	日頃の感謝	いつもお世話になっています (112)	
開催時期・頻度・場所の希望	開催時期・頻度	気候の良いときの開催	もうちょっといい気候の時にあるとうれしいです (41), 暑いです (60)
		季節ごとの開催	夏に限らず季節ごとに開催してほしい (20)
		月に1回の開催	月一回くらいやってほしいくらい楽しいです (65) (114)
			毎週とは言わないが、毎月1度あるとありがたい (92)
	毎日の開催	毎日でもしてほしい (80)	
開催場所	郊外での開催	郊外でもイベントがあるといいなと思います (18)	
遊びやイベントの希望	外遊びの希望	子ども同士で遊ぶ機会	親子でというのも大事だけど、子ども同士という機会がもっと多いことを望みます (92)
		仲間が増えるいろいろな場所での遊び	いろいろな場所でやると仲間が増えていいと思います (112)
		広い場所で体を動かす遊び	運動公園など広いところで体を動かす遊びもしていただけたら良いなと思います (103)
		自然なものを使った遊び	自然のものでもっと遊ばせたい (24)
	イベントの遊びの希望	子どもが喜ぶスリルのあるもの	子どもが喜ぶ少しスリルのあるものを期待します (32)
		いろいろな種類の遊ぶもの	もっといろいろな遊ぶものがあつたら良いのと思いました (101)
		ツリーイングの希望	ツリーイングがやりたかったです (57) ツリーイングをまたしたいですが、10歳過ぎます。体重制限だと軽いのでまたできそうです (23)
	ツリーイングをやれる人を増やしてほしいです (57)		
	イベントの企画に関する希望	昼食になる食べものの販売	昼食になるような食べ物の販売があれば嬉しいです (115)
		近くの店の出店	近くのお店から出店したら売れると思います (野菜とかパンなど) (101)

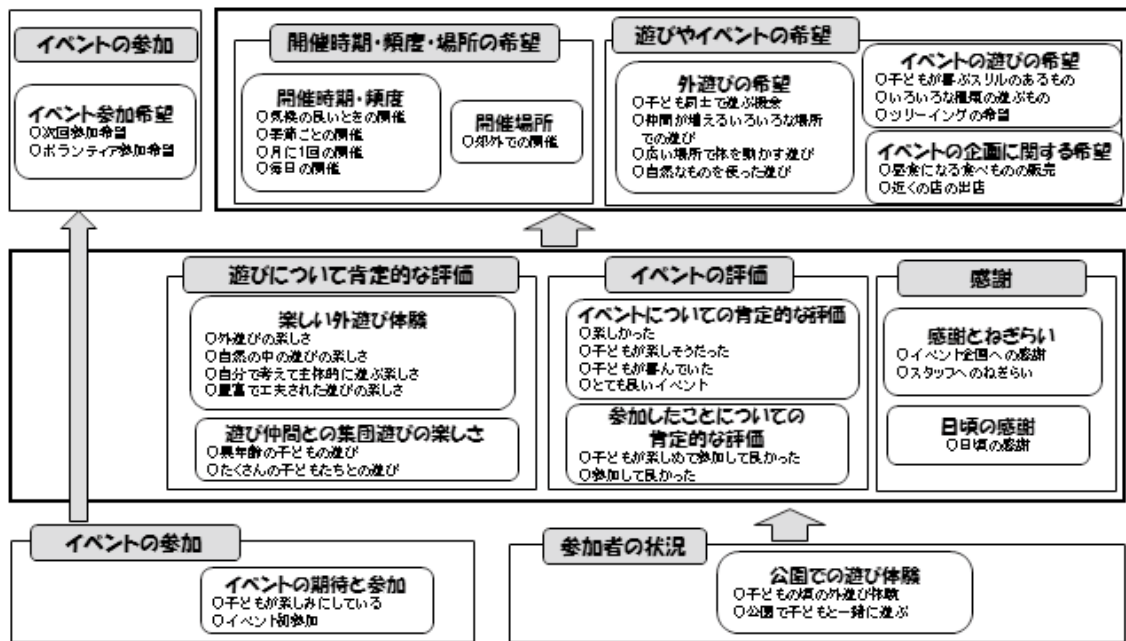


図3 自由記述の内容分析 (関連図)

た。自由記述の分析結果について大カテゴリ、カテゴリ、サブカテゴリの関連を示すと図3のようになる。この関連図をもとに自由記述のストーリーラインについて、以下に述べる。

イベントに参加する【参加者の状況】をみると、<子どもの頃の外遊び体験>がある人や、<子どもと一緒に公園で遊ぶ>など<公園での外遊び体験>がある人が参加していた。【イベントの参加状況】については、<イベントに初参加>の人や、<子どもが楽しみにしている>人がおり、<イベントへの参加・期待>があることがわかった。

参加者は、イベントで実施された【外遊びについて肯定的な評価】をしていた。子どもたちは、<外遊びの楽しさ>、<自然の中の遊びの楽しさ>、<自分で考えて主体的に遊ぶ楽しさ>そして<豊富で工夫された遊びの楽しさ>など<楽しい外遊び体験>をしており、<異年齢の子どもとの遊び>や<たくさんの子もたちとの遊び>など<遊び仲間との集団遊びの楽しさ>を体験できてよかったと思っていた。

参加者は、次のように【イベントの評価】をおこなっていた。参加者自身もこのイベントについて<楽しかった>と思っており、<子どもが楽しそうだった>、<子どもが喜んでいて>ことから<とても良いイベント>であったと<イベントについて肯定的な評価>をしていた。<子どもが楽しめて参

加して良かった>そして参加者自身も<参加して良かった>など、このイベントに<参加したことについて肯定的な評価>をおこなっていた。参加者は、このイベントに【感謝】もあらわしていた。<イベント企画への感謝>や<スタッフへのねぎらい>など<感謝とねぎらい>を示していた。日頃からプレーパークに行っている参加者は<日頃の感謝>もあらわしていた。

このように参加者は、公園で実施される外遊びを中心としたイベントについて肯定的に評価しており、<イベント参加希望>として<次回の参加希望>が多くあった。また、<ボランティア参加希望>もあった。また、【開催時期・頻度・場所の希望】や【イベントでの遊びや企画に関する希望】もあがっていた。【開催時期・頻度・場所の希望】に関しては、<開催時期・頻度>としては<気候の良いときの開催>、<季節毎の開催>、<月に1回の開催>そして<毎日の開催>などの希望があった。<開催場所>については、<郊外での開催>も希望していた。【イベントでの遊びや企画に関する希望】については、次のような希望があげられていた。<子ども同士で遊ぶ機会>があり、<仲間が増えるいろいろな場所での遊び>、<広い場所で体を動かす遊び>、そして<自然なものをを使った遊び>などの<外遊びの希望>や、<子どもが喜ぶスリルのあるもの>、<いろいろな種類の遊ぶもの>そして<ツリーイングの

希望>などの「イベントの遊びの希望」をあげていた。さらに、イベントに「昼食になる食べものの販売」や「近くの店の出店」を出してほしいなど「イベントの企画に関する希望」もあった。

4. 考察

4.1 緑の遊び場プロジェクトの評価

このイベントに子どもを連れて参加した親の95.1%が参加して良かったと思っており、このイベントの満足度は高かった。このイベントの参加をきっかけに、公園で外遊びをしたいと思う人が93.4%、近くでこのようなイベントが開催されたら参加したいと思う人が95.1%もいたことから、このイベントの評価は非常に高いことが明らかになった。なお、イベントが開催された公園や、参加者の年代による違いは認められなかった。今後とも、このプロジェクトを継続するとともに、他の公園での実施、小さい子どもや大きい子どもが参加できる外遊びやイベント回数を増やすなど、イベントの充実と拡大が期待される。

イベント参加満足度の高い人は、イベントの参加をきっかけに公園で外遊びをしたいと思っており ($p=0.25$; $p<0.01$)、近くの公園でこのようなイベントがあれば参加したいと思っていること ($p=0.41$; $p<0.01$) も明らかになった。このように、イベントの満足度が高いことと、公園での外遊び希望や公園でのイベント参加希望と関連があることから、今後、このイベントの遊びの内容を充実していくことが重要である。自由記述でも【外遊びについて肯定的な評価】が多く、【外遊びやイベントの希望】もあった。岡山市子どもセンターは、常設の「おかやまプレーパーク」を開設し、プレーリーダーも常駐しており、外遊びの理念や知識やスキルを備えたスタッフも多いので、今後とも楽しい遊びの工夫が期待される。

また、イベントへの参加をきっかけに、公園で外遊びをしたいと思う人は、イベントに参加したことを良かったと思っており ($p=0.25$; $p<0.01$)、子どもが普段から公園で遊んでおり ($p=0.31$; $p<0.01$)、さらに、近くの公園で、このようなイベントが開催されたら参加したいと思っていること ($p=0.51$; $p<0.01$) が明らかになった。このような公園での外遊びのイベントを体験することは、より公園での外遊びを促すことが推察される。

4.2 プロジェクトの認知度・参加度と外遊び

イベントを知っていた人は、知らなかった人に比べ、普段、子どもが公園で遊んでおり、また、イベントの参加をきっかけに公園で外遊びをしたいと

思っていることが明らかになった。このことから、公園での外遊びを重視している人は、このようなイベントに感心が高いことが推察される。

また、イベントに参加したことのある人は19%と少なかったが、初めて参加した人(81.0%)と比べ、イベントに参加したことがある人は、公園での外遊びの頻度、公園外遊びへのイベント参加効果、公園でのイベント参加希望がいずれも高かった。このことから、イベントに参加することは、公園での外遊びの機会を増やし、外遊びの意識を高めることが推察される。

ただし、イベントの認知度やイベント参加経験とイベント参加満足度とは関連がなかったことも重要である。イベントを知らなかった人にも、初めてイベントに参加する人にとっても、楽しいイベントであったことがわかる。自由記述にも、自分自身も「楽しかった」「参加して良かった」と思っており、「子どもが楽しそうだった」「子どもが楽しめて参加して良かった」とイベントの満足度が高かった。このことが「次回参加希望」や「ボランティア希望」につながっていた。2013(平成25)年度に実施された「緑の遊び場(ESD)プロジェクト」では、今後もこのプロジェクトに参加したいと答えた人が93.2%であったが¹⁴⁾、本調査でも自由記述に「次回の参加希望」が多くあった。

なお、本事業の一環として作成された外遊びノートについては知っている人が6.8%と極めて少なかったが、読んでみたいと答えた人が50.4%もいたことから、今後、外遊びノートの普及が期待される。プレーパークやイベントでの配布、インターネットによる広報だけではなく、実際に外遊びノートを使った講習会・研修会などの開催を実施することも必要だと思われる。

4.3 行政とNPO法人との協働事業としての緑の遊び場プロジェクトの評価

「緑の遊び場プロジェクト」は、「地域が交流できる公園の活用を目指し、まちなかでの子どもたちの外遊びを応援し、持続可能な社会の担い手を育む取り組み」¹³⁾を目的とし、岡山市が岡山市子どもセンターに委託をして実施する行政とNPO法人の協働事業である。2016(平成28)年に、冒険遊び場を実施している(委託も含む)自治体は全国的にみると15%に満たないが、その数は少しずつ増加している¹⁵⁾。子どもの自由な遊びを社会全体として保障していくためには、このような事業の継続が重要になるが、特に自治体を実施する場合は、その根拠として総合計画や条例等に位置づけられることが望ましいことや、自治体内の一部の部署だけで実施するのではな

く、関係各部署が連携することも重要な要件である¹⁶⁾といわれている。このプロジェクトには、岡山市都市衛生局都市推進課職員や公園協会職員の参加があり、関心が高い。また、2015(平成27)年からは岡山っ子育成局地域子育て支援課からの委託を受け「岡山市プレーパーク普及事業」^{†4)}という協働事業も開始している。今後、このような協働事業を継続していくためには、条例や規則の整備、関係部署の連携が課題となってくる。

また、今日、このようなプロジェクト(協働事業)の実施については、PDCAサイクルが求められて

いる。事業評価を行うには、参加者数や活動内容を報告するアウトプットだけではなく、利用者評価(満足度調査)を行い事業の成果を報告するアウトカムが必要である。今回は、イベントに参加した親のアウトカムは報告できたが、今後はイベントに参加した子どものアウトカム・利用者評価をおこなうことも課題となる。さらに、イベントの内容を充実するためにはイベントの企画・運営を実施するスタッフの自己評価と分析を行い、プレーリーダーとしての専門性を高めていくことも課題となってくるであろう。

謝 辞

本調査の調査票の作成、調査結果分析とまとめについては、岡山市子どもセンターの美咲美佐子さんや道仙八代己さんから依頼を受けて実施しましたが、その結果を発表することを了解していただきましたことに感謝申し上げます。また、同様に本調査の結果を発表することを了解していただきました岡山市都市整備局庭園都市推進課の職員の皆様にも感謝申し上げます。

注

- †1) プレーパークは、冒険遊び場とも言われている。冒険遊び場は、住民(NPO等)が主体となり、自治体と連携して設置し、運営している子どもの遊び場である。1970(昭和45)年代の半ば、遊び場が急激に減少し、変化する中で危機感を感じた世田谷区の大村慶一・璋子夫婦が地域住民に呼びかけ、ボランティア団体「あそぼう会」を立ち上げ、地域住民による空き地を借用して冒険遊び場を始めたのが日本における冒険遊び場の始まりといわれている。1979(昭和54)年に行政(世田谷区)と市民による協働運営で、世田谷区の国際児童記念事業として、日本初の常設の冒険遊び場「羽根木プレーパーク」が誕生した。その後、冒険遊び場づくり活動は全国各地にひろがり、NPO法人日本冒険遊び場づくり協会の調査によると、全国に2013年度現在で約400団体が活動を行っている。
- †2) 岡山市子どもセンターは、2003(平成15)年3月に旧石出小学校の校庭を借りて「プレーパーク」をスタートさせた。最初は年に夏・冬に計5日間の開催であったが、毎年開催回数と日数を増やし、2008(平成20)年度からは、学南町の国際児童記念公園「こどもの森」の一画を借りて、「おかやまプレーパーク」として、年に約240日(週5日)開催し、常設でプレーリーダーを常駐するようになった。2009(平成21)年度は出張プレーパーク、2013(平成25)年からは緑の遊び場プロジェクト、そして2015(平成27)年度から山市プレーパーク普及事業を開始している。2018(平成30)年度の9月からプレーリーダー2名体制で、市内13ヶ所でプレーパークを開催している。年間約200日開催、約14,000人が参加している。
- †3) 『外遊びノート』は、2013(平成25)年に岡山市の委託を受け、「ESD(持続可能な子どものための遊び場づくり)事業」の一環として、岡山市子どもセンターによって編集、製作された。この『外遊びノート』は、子育て中の親、子育て支援を行う個人、そして団体などに、子どもたちがもっと外で遊ぶためのヒント、遊び場づくりを手助けする情報を提供するためにまとめられたものである。
- †4) 「岡山市プレーパーク普及事業」は、2015(平成27)年にNPO法人岡山市子どもセンターが岡山っ子育成局地域子育て支援課からの委託を受け、実施されている。その目的は、①「外遊び」を通して、子どもを心豊かに健全育成する、②外遊びの経験の少ない親世代や地域住民に外遊びの楽しさを再認識してもらい「子どもの育ちにおける外遊びの重要性」への理解を深める、③「外遊びを通じた子育て」をテーマに、地域ぐるみの子育ての機運を高め、子どもが安心して健全に育つ地域環境を整えていくことである。2017(平成29)年度は、①プレーリーダー養成講座とプレーパークの開催(6ヶ所の公園)、②研修会の火災(基礎講座と全体研修会)、③体験会(2ヶ所の公園)、④プレーリーダー養成講座受講者への修了証の発行(41人)が実施された。

文 献

- 1) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課：平成21年度全国家庭児童調査結果の概要。
<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001yivt.html>, 2011.(2019.3.21確認)

- 2) 八重樫牧子：地域における子どもの遊びや生活に関する調査. 厚生指標, 52(2), 7-14, 2005.
- 3) 岩佐玲子:情報社会と<暮らし>の変容(1970年代). 高橋勝, 下山田裕彦編, 子どもの<暮らし>の社会史, 川島書店, 東京, 115-129, 1995.
- 4) 住田正樹：子どもは集団仲間によって育つ. 日本子ども社会学会編, いま, 子ども社会に何がおこっているか. 北大路書房, 京都, 38-54, 1999.
- 5) 佐藤一子：子どもが育つ地域社会—学校五日制と大人・子どもの共同—. 東京大学出版会, 東京, 2002.
- 6) 深谷昌志, 深谷和子, 高旗正人編：いま, 子どもの放課後はどうなっているのか. 北大路書房, 京都, 2006.
- 7) 遠藤俊明, 星山謙治, 安田貢, 齊藤由美：遊びが児童の心身に与える影響について—児童の攻撃性・社会性に着目して—. 教育実践研究, (12), 25-34, 2007.
- 8) 八重樫牧子：児童館を利用している子どもの社会性に関する調査研究. 福山市立大学記念論集編集委員会編, 児童教育学を創る, 児島書店, 福山, 231-247, 2011.
- 9) W. デーモン著, 山本多喜司編訳：社会性と人格の発達心理学. 北大路書房, 京都, 1990.
- 10) 渡辺弥生, 伊藤順子, 杉村伸一郎：原著で学ぶ社会性の発達. ナカニシヤ出版, 京都, 2008.
- 11) 梶木典子, 瀬渡章子, 田中智子:プレイリーダーのいる子どもの遊び場に対するニーズと評価—「プレイスクール」における調査事例—. 日本家政学会誌, 51(6), 497-508, 2000.
- 12) 特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会：私たちが目指す冒険遊び場づくり.
<http://bouken-asobiba.org/make/goal.html>, 2019. (2019.3.21確認)
- 13) 岡山市：緑の遊び場プロジェクトとは.
http://www.city.okayama.jp/toshi/teien/teien_t00007.html, 2019. (2019.3.21確認)
- 14) 岡野聡子：都市公園における子どもの遊び場環境づくりの可能性—NPO と行政の協働による「緑の遊び場 (ESD) プロジェクト」を通して—. 奈良学園大学紀要, (1), 11-23, 2014.
- 15) 梶木典子：自治体による冒険遊び場づくり事業の取り組み実態とその経年変化. 一般社団法人日本家政学会研究発表要旨集第70回大会, 2E-09, 2018.
- 16) 梶木典子編：住民・行政のパートナーシップで育てる冒険遊び場モデル事業. 第2版, NPO 法人日本冒険遊び場づくり協会, 東京, 2015.

(令和元年6月22日受理)

Present Conditions and Problems of Creating a Playground for Children: Through a Questionnaire Survey on the Participation Situation and Evaluation of “Green Playground Project”

Makiko YAEGASHI

(Accepted Jun. 22, 2019)

Key words : creating a playground for children, play park, Green Playground Project,
participant evaluation, questionnaire survey

Abstract

The purposes of this research were to clarify the participation situation, and the degree of satisfaction of those parents with children who joined a creating a playground project in the park. The project was implemented as the “Green Playground Project of 2018” under a collaborative project between Okayama City and the Okayama Children’s Center. By conducting a questionnaire survey for the parents, this study examined several future subjects of this project. The number of research objects was 121 people; 79 who joined in Nishigawa Ryokudo Park, and 42 who participated in Nodayachou Park. The research showed two results; 95.1% of participants showed a high level of satisfaction. These people, who were motivated by this research project, wanted their children to play outside and to join such events. The second result showed that 93.4% of participants wanted to play outside at the park. Their children always play well in a park and would want to participate if such an event were to be held in a park nearby. From the above, it is an issue to continue and to enhance the project in order to promote the sound growth of children through “outside play” in the park. Moreover, we would like to increase the number of events, and carry out outside play where young and older children can participate.

Correspondence to : Makiko YAEGASHI

Department of Community Welfare

Faculty of Human Health Sciences

Niimi University

1-9-20-1 Fukui Tsushima, Kita-ku

Okayama, 700-0080, Japan

E-mail : hamanami@po8.oninet.ne.jp

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.29, No.1, 2019 175 – 189)